第７章　比較：比較三原則の確認

〈非核三原則〉にあやかって、筆者が駄洒落的に〈**比較三原則**〉と呼んでいるものがある。

- **第一条**　**as ～ as ...に挟まれた形容詞や副詞、比較級になる形容詞・副詞およびそれに絡む語は同一文中では一回しか書かない。二回目は省略する**
- **第二条**　**比較の構文においては、比べるもの同士（比較対象）は文法的にも意味の上でも同一レベル・同一範疇のものでなければならない**
- **第三条**　**as/than の次は明確なこと（時には明確な嘘）を述べなければならない ☞ as 以下次第では、as ～ as ...の～は逆に訳したり意訳したりしなければならない**

第二条の「文法的に同一レベル」というのは、第１章の §6 で扱った〈as/than の前後も線対称〉という話と同じである。「意味の上でも同一レベル」という項目に関しては、読解のときは意識しなくても支障はないが、作文では重要なことなので、あえてここで触れておく。

「この街の人口はわが故郷よりも多い」を英訳してみよう。

(a) **The population** of this city is *larger than* **my hometown**.（×）

(a) は文法的には正しくない文とされる。このままでは population「人口」と hometown「故郷」を比べることになってしまい、比較対象がそろっていないからだ。比較対象は意味の上でも統一しなければならないので、population と population を比べなければならない。英語は同じ語を二度使うことを嫌うので、二回目は代名詞 **that**（前出名詞が単数形のとき）か **those**（前出名詞が複数形のとき）を用いる。

(b) **The population** of this city is *larger than* **that** of my hometown.（○）